

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>京都府立盲学校創立150周年(令和10年度)に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを第2期5カ年計画として目指す。(5年目)</p> <p>1 自立と社会参加を目指した教育活動の推進 【重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤となる言語活動の充実 ・生涯スポーツにつながる基礎体力の強化 ・職業教育の充実 ・視覚障害を伴う重複障害教育の充実 ・自立活動を中心とした研究活動の推進と校外への発信 ・早期教育(幼稚部)の強化 <p>2 視覚障害教育におけるインクルーシブ教育システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲学校を中核とする「連続した多様な学びの場」(幼・小・中・高・特支)との交流及び共同学習等の推進 ・視覚支援センター及び南部視覚・聴覚支援センターの相談機能(就学前、入学、進路等)の強化 <p>3 共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携推進</p> <p>4 人権尊重と安心安全な教育環境を基盤とした学校づくり</p> <p>5 「働き方改革」を踏まえた学校運営</p> <p>6 「京都盲啞院関係資料(重要文化財)」の管理・保存と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立聾学校と連携した150周年記念資料集の編纂及び記念行事の検討 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他府県の視覚支援学校、近隣の総合支援学校との交流をはじめ、居住地校との交流も積極的に展開でき、集団での学びが充実した。 ・ホームページを活用して学部の取組や様子等を積極的に発信できた。 ・京都府南部視覚・聴覚支援センターの設置により、地域支援センターとして京都府全域を支援する体制はより一層充実した。 ・個々の生徒に応じた進路先開拓、関係機関との連携強化、各学部段階での適切な情報提供により、進路指導の充実を図った。 ・両校地の児童生徒の実態に合わせて、関係機関と連携し、避難訓練や防犯訓練を実施すると共に、教室にヘルメットと防災袋を置くなど、学校安全の取組が進んだ。 ・150周年記念資料集の編纂及び、京都府立聾学校と連携した記念行事の検討について年度目標どおりに準備を進めることができた。 ・保護者配信アプリの導入により、効率的な情報のやり取りができた他、校内のタブレット端末の配備充実により、ペーパーレス化を図った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育力のスキルアップと授業での活用 ・言語活動を中心に据えた教育活動の一層の推進 ・関係機関との連携による進路指導・キャリア教育の充実 ・自立活動を中心とした教育実践の整理と発信 ・個々の視覚障害幼児児童生徒の状況に応じた地域支援の充実 ・専門性向上のための研究研修の一層の推進 	<p>1 学習指導要領の趣旨を踏まえた、各学部における授業改善</p> <p>2 児童生徒数の推移を踏まえた教育活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動(行事や授業等)における学部間で連携した学習集団の確保 ・学部・学科・学級の実情に応じた交流及び共同学習の発展 <p>3 スポーツ、文化活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の豊かな生活に繋がる各種大会等への積極的参加 <p>4 キャリア発達と希望進路実現に向けた指導・支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達を踏まえた教育課程の編成(体験学習、実習等) ・社会のニーズを踏まえつつ生徒の実態に適した職場開拓 ・卒業後の進学・就労等に関する事例の整理、活用 <p>5 ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DX研修の学びを生かしたICT機器を活用した授業実践 ・タブレット端末等ICT機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等の活用力の向上と生涯に渡る学習基盤づくり <p>6 視覚支援センター及び南部視覚・聴覚支援センターの機能強化と校内外の支援力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者・保護者との連携による切れ目なく繋げる地域支援の充実 <p>7 安心安全な教育環境の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯対策の一層の充実 ・人権尊重を重んじた教育活動の一層の推進 <p>8 視覚障害教育の専門性及び指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の工夫と充実 ・免許(視覚障害領域)取得の推進 <p>9 教育活動や学校の取組に関する広報の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、担当部署からの定期的な情報発信と、ホームページの積極的な活用 <p>10 「働き方改革」を踏まえた組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌・専門会議業務の点検と見直し

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性と指導力の向上 ・児童生徒の教育的ニーズの把握、教育内容の明確化と指導方法の工夫 ・学びの連続性を重視した小中高連携 ・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 	【小中学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育方針に基づき、児童生徒一人一人の教育内容の明確化と指導方法の工夫を行い、個に応じた指導の充実を図る。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学びの連続性を重視した小中高連携をもとに、自主的学習態度と課題解決能力を育成する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育をとおして、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしくたくましく豊かに生きる力を育成する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学習環境作りに向けた取組を推進する。 ・日常的な保護者との連携に取り組み、活動の発信の充実を図る。 		
		【高等部】 <ul style="list-style-type: none"> ・学部間連携によるタテの繋がりを基盤とし、教職員が互いに学び合い、指導上の課題解決や専門性の向上に努める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業や交流及び共同学習等におけるICT機器の利活用を進める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携した体験、実習等を取り入れ、キャリア発達を促すとともに、教育活動の充実を図る。 		
		【寄宿舎部】 <ul style="list-style-type: none"> ・舎生の基本的な生活習慣の確立を支援し、健康や安全に関する報告や共有等、速やかな対応に努める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学部、視覚支援センターと連携して学校運営に参画する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用し、タイムリーな情報発信を行う。 (3回/月)		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動全般 2	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、継続的な学校支援と就学・進学等に伴うスムーズな移行支援 ・弱視学級担当者等、視覚障害教育に携わる関係者の支援力向上 ・関係諸機関との連携やセンター業務の案内・周知の強化 ・早期からの支援、切れ目ない支援の充実 	<p>【視覚支援センター、南部視覚・聴覚支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動と個別の指導計画の活用を軸とした学校支援（伴走型支援）を実施する。 ・弱視教育指導者研修会（オンデマンド型（年2回）、集合型（年1回））と視覚障害研修講座を開催する。 ・教育局、市町教育委員会、保健センター等を訪問し、連携を強化すると共に、京都ロービジョンネットワーク相談員研修会（年3回）、京都府視覚相談会等に参加する。 ・あおぞら教室（月1回程度）、北部サテライト相談（隔月）を開催する。 医療機関等、関係機関との日常的な情報共有に基づく支援を提案する。 		
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を踏まえた組織運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部と校務分掌、及び両校地間の連携強化と確実な情報共有のための方法を工夫する。 ・分掌・専門会議業務の点検と見直しを図ると共に、ワークライフバランスのとれた安心安全な職場環境作りを牽引する。 		
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達と希望進路実現に向けた指導、支援の充実 ・小中学部から高等部までの系統的キャリア教育の推進 ・見学、実習、進路学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査やキャリアパスポートにより児童生徒の進路希望を把握し、個に応じた進路指導を行い、長期的視点での進路選択・進路実現ができるように努める。 ・小中学部から高等部までの連続性のある進路指導・キャリア教育を各学部段階において実施する。 ・見学や実習、進路学習等をとおして、生徒の自己理解を促し、進路に対する関心や態度、自己発信力、職業観、勤労観等を育成する。 		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマ「視覚障害教育に関する専門性の継承・発展及び指導力、支援力の向上」 ・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化 ・教職員の研究や研修に対する啓発と情報発信 ・150周年記念実践事例集の編集 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマを踏まえた研修や年2回の視覚障害教育研究会（全校研）を実施する。 ・ICTの活用やOFF-JT形式による研修の充実を図る。 ・全校授業公開（2回）や研究仮説に基づく研究授業等（各部1回）を実施する。 ・校内研修等の形態、視覚障害教育に関わる情報発信の方法を検討すると共に、校内研修のまとめを作成し、配布する。 ・各学部段階で大切にしたい視覚障害教育の専門性を系統化し、原稿執筆の依頼、集約を行う。 		
生徒指導 ・ 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学部及び寄宿舍との連携強化 ・問題事象等に対する、早期発見と組織的かつ計画的な対応 ・児童生徒の健康安全・防犯に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で情報を共有し、校地間の繋がりを意識した取組を行う。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、きめ細やかな指導を推進する。未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応を徹底する。 ・安心安全な学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底を図る。 ・校内の施設・設備等、学習環境の改善に努める。 ・学校関係者や家庭と連携し、児童生徒に健康の大切さや維持増進するための方法について理解を促し、適切な生活習慣や食習慣が実践できる力を育む。 ・各校地の特性を踏まえた避難訓練や防犯訓練、緊急時対応訓練（AEDの使用法を含む）を計画的に実施する。 ・食物アレルギー対応委員会を中心に安心安全な給食の提供について努めると共に、食物アレルギーに係る研修等を計画的に実施する。 		

I C T 教 育 ・ 情報管理	・ I C T教育力のスキルアップと授業での活用推進	・ 「学校DX研修」をとおして、I C T教育のスキルアップを図る。また、研修で取得した内容を活かした授業づくりができるようサポートを行い、I C T利活用を推進する。			
	・ 定期的な校内環境の保守管理及びセキュリティインシデント対策の徹底	・ 視覚アセスメント表に基づき、I C T機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等のスキルの習得を系統化する。			
		・ 各学部と連携し、他府県盲学校や府内の視覚支援学級との共同学習や交流のサポートを行う。			
		・ I C T教育を円滑に実施するため、校内環境の保守管理を行うとともに、教職員のセキュリティ意識の向上に努める。			

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に 向けた改善の 方向性	